

難波田城公園をもっと楽しむ方法

市民学芸員 大木 克巳

公園内の田んぼ前、石碑の後ろの日陰がちの所にドクダミの自生地があります。通常、ドクダミは一重の花が咲きますが、ここのドクダミは、八重に咲く珍しいものです。また、ドクダミは多くの薬効があるため、民間薬として江戸時代には「十薬」の別名がつけました。花期は6~7月です。

向かいの生垣のそばには、アスナロの木があります。木の名の由来は『明日(あす)ヒノキになろう』からといひます。ヒノキ科の常緑高木で葉はヒノキに似ていて判別は難しいです。昔は建築材、船材などに、その他、江戸時代には火縄銃の火縄の材料にもなっていました。火縄は樹木や竹の繊維で縄をない、硝石(しょうせき)をしみ込ませて作ります。

このように、昔は自然の営みと共存し生きていました。このほかにも、様々な植物が園内にあります。その一部を紹介します。

まず城跡ゾーン。土塁に植えられている笹はオカメザサ。その名は、浅草の市で縁起物として、この笹の穂(きお)にオカメを吊り下げて売っていたことに由来します。また埼玉県では、秩父地方で農閑期にオカメザサを使い、笹カゴを編んでいたといひます。年配の人には記憶があると思ひますが、昔コタツの上にミカンを入れて置いてあった入れ物です。

水堀の中にはショウブがあります。アヤメ科のハナショウブと間違われませんが、本種はサトイモ科です。昔は根茎を干した物を健胃薬として煎じ服用しました。5月の菖蒲湯に使うのもこちらです。

古民家ゾーンに入ると蓮池があります。蓮根(れんこん)は血止めや貧血改善にも効くといわれていました。蓮の実も食用になり、不老長寿薬ともいわれました。

蓮池を過ぎると田んぼがあります。雑草とひとくりにされる、コナギ(ミズアオイ)、種漬け花(タネツケバナ)も食用、薬用、暦代わりになっていました。ジュズダマも栽培種は、漢方で用いるハトムギです。

田んぼの斜め向かい、生垣の中にサイカチ(阜莢・梶)の大木が見えます。この木の実(み)は、サポニンを含み、洗濯用または解毒剤などに使用されたそうです。



八重のドクダミ

古民家のまわりには、民間薬の原料として欠かせないオオバコや、お灸のモグサとして使うヨモギも生えます。旧大澤家の裏庭には、新しい葉が成長してから古い葉を落とすことから、円満な家督相続の象徴とされたユズリハの木があります。鈴木家表門の前の畑では、藍や綿などを栽培しています。

西門の付近にはスズメノカタビラが生えています。あまり役には立ちませんが、枕草子にも登場するなど、昔から親しまれてきた草です。

このように園内には、沢山の民間薬として親しまれた草花があります。園内ではほとんど農薬を使用していないため、生命力が弱い野草も生えています。皆さんも探索して見てはいかがでしょうか。

昨年、私たちは「いきものがかり」という新たな集まりを作りました。園内の動植物に関する活動を行っています。その活動でも、今回紹介した様々な植物を活かしていきたいと考えています。またこの集まりは市民学芸員、資料館友の会の方だけではなく市民の方の参加も募っています。今後は、自分たちで育てたホウキモロコシを使い、地元(かた)に伝わるほうき作りを習ったり、ハスの花托(かた)でグッズ作り、ススキのミズク作りなどを予定しています(参加希望などのお問合せは資料館まで)。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。



大澤家長屋門(平成 19 年)
部屋が設けられているのが分かる

○農地解放でどんな変化がありましたか
「戦後の農地解放により田んぼが少なくなり、生活は大変でした。門の前の田んぼを返してくださいさる方もいて、そこを耕しました。嫁入り道具の中に地下足袋が入っていて、それを履いて見よう見まねで仕事をしました」
綾さんの嫁入りなど大澤家に様々な出来事があった時期のようです。
(文責 研修・交流班)

「昭和二十二年(1947)三月、十九歳の時に、二十九歳の主人と結婚しました。その前から何回か狭山(当時は入間川町)の実家から電車とバスで東大久保まで来ていましたので、違和感はありませんでした。専門学校に通っていたため、農作業はこちらにきてから始めましたが、人手が結構いたので安心でした。」

○戦中・戦後の大澤家
今回は、大澤家の戦中・戦後の様子を中心にお聞きしました。
「ウマヤの上に二階を造り、そこに男の方を住まわせていたそうです。その方は復員後、結婚されてお嫁さんと一緒に、当家の長屋門に住んでいた時期もあったとのこと。長屋門は中を仕切り、八畳の部屋を四つ造り、疎開の方々を受け入れたことも聞いています。この時期、他に親戚も離れに疎開しており、賑やかだったと伺っております」
○嫁がれた当時どんなお気持ちでしたか
「昭和三十二年(1947)三月、十九歳の時に、二十九歳の主人と結婚しました。その前から何回か狭山(当時は入間川町)の実家から電車とバスで東大久保まで来ていましたので、違和感はありませんでした。専門学校に通っていたため、農作業はこちらにきてから始めましたが、人手が結構いたので安心でした。」

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介
古民家シリーズ⑧ 大澤 綾さんに聞くその三

おもしろ・なつかし体験⑤③
二毛作に挑戦・小麦づくり

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

昨年の師走の初め、風もなく暖かな陽射しの下、少し不規則に並んだ稲株が残る難波田城の田んぼに、小麦づくり体験に応募された方と応援の皆で、小麦の種をまきました。季節外れの雪のために、一週間遅れの作業です。少し湿った土に苦労しながら 10本の畝を作りしました。

近年は、稲刈の終わった田んぼで小麦を育てる二毛作を見かけることは、ほとんどなくなりました。難波田城では二毛作の復活に挑戦です。

これからの作業は麦ふみ・雑草取り・麦刈り・昔の方法での脱穀・石臼での製粉があります。最後は

手作りの小麦粉を使い、市内で昔から食べられている“ヤキビン”や、うどんなどを作って食べる予定です。

麦秋の風にそよぐ小麦色になった麦の穂の揺れる情景を想い、今後の作業を“麦づくり体験隊”の皆様と一緒に楽しみながら進めたいと思います。

(佐々木紀之)



子どもも大人も一生懸命!



人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、地元につながる資料を紹介し
ます。今では使われなくなったものからわたしたちの
身近な歴史をひもといてみたいと思います。

「武鑑」は武士の名鑑

3月18日(土)から6月11日(日)まで特別展示室
で企画展「武鑑の世界—江戸時代の大名ガイドブッ
ク—」を寺田勝廣さんのコレクションをお借りして
開催します。大名や旗本、幕府役人などを掲載した
名鑑である武鑑についてご紹介します。

武鑑の成立

寛永年間(1624~44)から大名の名前、石高、居
城、家紋などを記した武鑑の原型となる本が出版さ
れはじめました。「紋尽」とよばれるようになると、
家紋が図示されるとともに、江戸屋敷の場所が記さ
れました。さらに、「江戸鑑」とよばれるようにな
ると、大名の江戸市中での行列道具が図示され、幕
府役人の名前も掲載されるようになりました。こう
して掲載される内容が増えるとともに書名も変わり
貞享2年(1685)の『本朝武鑑』で初めて「武鑑」
という書名が使われました。

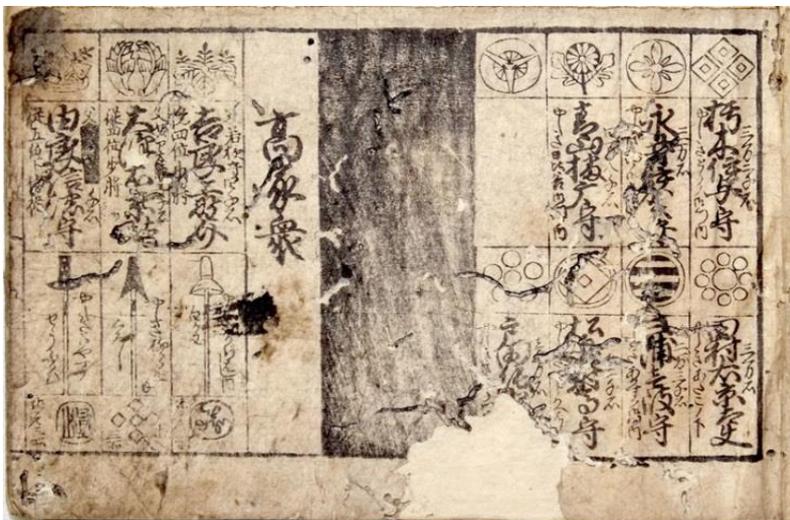
板元と改訂

最初に武鑑の出版を手掛けたのは京都の板元でし
たが、寛文~天和年間(1661~84)になると江戸の板
元も出版に乗り出しました。多い時には10軒以上が
出版しましたが、数年で出版を止める板元が大多数
でした。そのような中で、元禄年間(1688~1704)に
武鑑の出版を始めた須原屋茂兵衛は幕末まで継続し
て出版しました。もう1軒の武鑑の板元として知ら
れる出雲寺家は、元文元年(1736)以降に出版を開始
し、天保7年(1836)以降は恒常的に出版しました。

板元は武鑑の記事を改訂するため、大名行列の道
具や駕籠の紋の書き写し、下座見(江戸城の門で誰
の行列か判断する役職)への問合せ、武鑑の購入者
からの指摘、大名屋敷への訪問、といった様々な情
報源を駆使しました。現在残されている武鑑の改訂
状況を見ると、江戸時代中期には年に1~2回、幕
末には毎月のように改訂が行われました。

構成と内容

「紋尽」は1冊構成で、「江戸鑑」は当初は大名衆
と役人衆の2冊構成でした。元禄16年(1703)刊行の
『元禄武鑑大全』で大名衆が2分冊となり、宝永5
年(1708)刊行の『一統武鑑』で役人衆が2分冊され
ました。こうして①10万石格以上の大名、②1万石
以上10万石未満の大名、③幕府役人、④西丸(将軍
世継または隠居の居所)役人、の4分冊構成となりま
した。①②には、家系・紋所・当主の名前・妻・家
督年月・嫡子・参勤交代・献上品・江戸市中行列道
具・江戸屋敷・領地・江戸からの距離・主な家臣な
どが記載されました。③④には、役名・家紋・就任
年月・江戸市中行列道具・屋敷地・主な家臣などが
記載されましたが、下位の役職ほど記載内容が省か
れ、文字も小さくなっています。(山野健一)



新板改正元禄武鑑役人衆 左から3人目が吉良上野介(元禄7・1694年刊)



貞享武鑑 左が浅野内匠頭の記事。下に大石内蔵助の名がみえる(貞享元・1684年刊)

* * 春のイベント予定 * *

●企画展情報

春季企画展

「武鑑の世界～江戸時代の大名ガイドブック～」

江戸時代を通じて出版された武鑑は、大名や幕府役人に関する情報の宝庫です。寺田図書助勝廣氏のコレクションからその魅力をお伝えします。

会期／3月18日(土)～6月11日(日)

会場／特別展示室 入場無料

関連イベント

講演会「武鑑あつめて 60 年 その魅力と楽しみ」

とき／3月18日(土) 午後1時30分～3時

定員／30人(申込み順) 参加費／無料

会場／講座室

講師／寺田図書助勝廣氏

(川越藩火縄銃鉄砲隊保存会)

申込み／電話または窓口で

展示解説

開催中の企画展を担当した職員が、展示パネルに紹介しきれなかったことをふくめて、わかりやすく解説します。

とき／4月15日(土) 午後1時～1時30分

会場／特別展示室

定員／なし。直接ご来場ください

●ちよこっと体験「昔の着物を着てみよう」

野良着や羽織などを着て、ちよこっと昔の気分を味わってみませんか。子ども用も大人用もあります。

とき／3月25日(土)・26日(日) 午後1時～3時

※2時30分受付終了

場所／講座室

参加費／無料 直接ご来場ください

※順番待ちをしていただく場合もあります

協力／和道文化着装協会



●田んぼ体験隊 (全 7 回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。

場所／公園内田んぼ

定員／15組 (1組4名以内)。申込順

対象／市内在住・在学・在勤者を含む家族又は友人

参加費／1組1000円 (年間。材料代・通信費)

持ち物／汚れてよい服装、田んぼに入るときの履物

申込み／4月1日(土) 午前9時より電話で

農業指導／柳下春良氏(地元農家)

日程／

回	内容	日付	時間
1	説明、種まき、耕起	5/20(土)	14～16時
2	代かき、田植え	6/17(土)	14～16時
3	草取り (1回以上参加)	7/1, 8, 22の 各土曜日	10～11時
4	かかし作り 流しそうめん	7/29(土)	10～12時
5	稲刈り、矢来かけ	10/14(土)	14～16時
6	脱穀	10/28(土)	14～16時
7	もちつき、わら細工	12/16(土)	10～12時

難波田城公園活用推進協議会主催事業

◆ちよっ蔵市

3月26日(日) 草もち

4月23日(日) かしわもち

5月はお休み

田舎まんじゅう販売
第1、3日曜日 10:30～
お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)
3月7日(火)、4月11日(火)
5月9日(火) 11:30～13:30

◆難波田城公園まつり

6月4日(日)に開催する予定です。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。



公式サイト
QRコード

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)